

Book Review

歯科衛生士ベーシックスタンダード インプラント

末瀬一彦・水木信之・萩原芳幸・阿部田暁子 編著



Reviewer

小宮山彌太郎 Yataro Komiyama

(東京都・フローネマルク・オッセオインテグレーション・センター)

B5判, 176頁
オールカラー
定価(本体4,600円+税)
医歯薬出版刊



オッセオインテグレーションを礎とする今日のインプラント療法の最初の臨床応用から50年の節目を迎えた。その間に行われてきた、ハードウエアとしてのインプラント本体の材質、形態、表面性状の改変、ならびにソフトウエアとしての術式には種々の工夫が凝らされ、インテグレーション獲得の観点からは大きく進化し、アバットメントへの工夫によって審美的にも変化を遂げてきた。

しかしながら、異物となり得るインプラントの材質を健康状態にある組織内に残置する術式における「衛生観念」については、当初の臨床応用開始時よりも大きく退化しているといっても過言ではない。それは厳密なトレーニングをすることにより煩雑なシステムとユーザーから疎まれてしまうとのメーカーの思惑か、あるいは知識のないインストラクターの起用が原因かは知らないが、この辺りを深く触れないコースが、業者主導で行われることに起因しているのかもしれない。しかしながら、たかだかこの半世紀で生体組織の

反応が大きく進化して、治療能力まで高まっていると考える人はいないであろう。であるならば、生物学的な成り立ちを尊重すべき医療従事者は、術前に始まり、術中、さらにはそれ以降のメンテナンスにいたるまで、衛生観念を念頭に置かなくてはならない。

先に述べた現状では、大学ならびに病院の口腔外科に籍を置いた歯科医師および歯科衛生士を除き、手術レベルでの衛生環境のトレーニングを受ける機会のなかった人が多くても不思議ではない。その結果、医師からも疑問の声が聞かれるような、手術レベルでの衛生環境を無視したインプラント手術風景を載せたホームページ、あるいは動画サイトへの投稿が散見されるのかもしれない。

そうしたなか、本書『歯科衛生士ベーシックスタンダード インプラント』を参考にするだけで、真の意味での広告に役立つものを載せられると思われる。歯科医師だけではなく、歯科衛生士ならびに歯科助手などコ・デンタル・スタッフの知識、技術、そして

診療に取り組む姿勢が成績を左右する。

各分野の経験豊かなエキスパートにより編まれた本書には、インプラント療法の際に歯科医療従事者が知っておくべき要点が多岐にわたり詳細に記載されている。本書は、初心者にとってインプラント療法とは何か、取り組む前に備えていなければならない知識・姿勢をはじめとする基本的な道標となることはもちろんのこと、治療に慣れていると自負している人間に対しても、再度、警鐘を鳴らしてくれる書籍といえる。

時間の経過とともに、掲載されている一部の術式は変化するかもしれないが、生体組織の治療機転、さらには患者の感情が変化するわけではなく、この点において守らなくてはならない内容は不変であろう。言い換えるならば、本著は各診療施設には必ず常備すべき教科書であり、新人には必読のものとして、また経験を積んだ人間にあっても、ときおり紐解くことにより心を新たにする契機になるものと信じている。